

都市再生整備計画 事後評価シート
綾地区

平成26年3月

宮崎県綾町

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 宮崎県 | | 市町村名 | 綾町 | | 地区名 | 綾地区 | | | 面積 | 1,900ha | | |
|--------------------------------------|--|------------------------|--|--|---|--|---|---|---|----------|--|--|-------------|
| 交付期間 | 平成21年度～25年度 | | 事後評価実施時期 | 平成25年度 | | 交付対象事業費 | 927(百万円) | 国費率 | 0.4 | | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | | |
| | | | 基幹事業 | 道路(北麓市野々線、南麓三本松線、灰原線)、錦原森林緑地公園、産業観光情報案内板、産業観光会館、手づくりほんものセンター | | | | | | | | | |
| | | | 提案事業 | | | 既存老朽化施設等解体除去事業、中心市街地活性化推進事業 | | | | | | | |
| | | | 事業名 | | | 削除/追加の理由 | | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 | てるはの里ふれあい通り | | | 他の事業で実施するため本計画から削除。 | | | 影響なし。 | | | |
| | | 提案事業 | スポーツ施設改修整備事業 | | | 他の事業で実施するため本計画から削除。 | | | 影響なし。 | | | | |
| | | 新たに追加した事業 | | 基幹事業 | ・道路(千草通り線、川原元通り線(仮))、公園(入野橋公園、古屋公園、麓公園) ・公園(小田爪運動公園) | | | ・定住および移住促進のための事業として追加。 ・更なる事業効果の発現のために事業の追加。 | | | ・本事業の効果を踏まえ指標3の目標を設定。 ・観光客数の増加に関連するが、他の要因でも変動するため目標は据え置く。 | | |
| | | 提案事業 | ・駐車場兼イベント広場整備(てるはドーム、綾町文化ホール等公共施設、錦原運動公園、てるは大吊橋)、スポーツ交流施設改修 ・事後評価調査 | | | ・更なる事業効果の発現のために事業の追加。 ・今回計画における効果持続を図るための調査の追加。 | | | ・観光客数の増加に関連するが、他の要因でも変動するため目標は据え置く。 ・影響なし。 | | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | - | | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | - | | | | |
| | | 変更 | - | | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | | | | | | |
| | 指標1 | 産業観光会館の活用状況 | 日/年 | 75 | H19 | 240 | H25 | - | 326 | ○ | あり なし | 活用する側のニーズを踏まえた施設内容としたことで、整備後に様々なまちづくり組織が情報発信やまちの活性化などを目的として積極的に活用する結果が得られたと考えられる。 | 平成26年7月頃 |
| | 指標2 | 来街観光客数 | 人/年 | 318,272 | H19 | 400,000 | H25 | - | 267,000 | × | あり なし | ● 近年の地方部での厳しい社会経済情勢の影響や、町内人口減少などの影響を受けて、数値増に至らなかったと考えられる。 | 平成26年7月頃 |
| 指標3 | 転入人口の増加 | 人/年 | 209 | H19 | 300 | H25 | - | 325 | ○ | あり なし | これまでの豊かな綾の自然と文化、有機農業を活かしたまちづくりが町外に浸透している流れの中で、本事業は情報発信や良好な住環境創出の一端を担う事業として、一定の効果が得られたと考えられる。 | 平成26年7月頃 | |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | | | | | | |
| | その他の数値指標1 | 『綾のまちづくり』に対するサポート人数の増加 | 人/年 | 170 | H20 | / | / | - | 13,636 | / | / | 情報発信施設整備や各種組織によるまちの魅力高めるための取り組み等は、『綾』の様々な魅力・情報の発信強化を図るものであり、『綾のまちづくり』を支援する町外者の大幅増の1つの要因として考えられる。 | 平成26年7月頃 |
| その他の数値指標2 | 『綾のまちづくり』への参加(意欲)者数の増加 | 人/年 | 9 | H20 | / | / | - | 18 | / | / | 「手づくりほんものセンター」の機能強化や情報発信により、本町の「自然生態系農業を活かしたまちづくり」の認知度が更に向上し、『綾のまちづくり』への本指標の数値増につながったと考えられる。 | 平成26年7月頃 | |
| 4)定性的な効果発現状況 | ・町民ワークショップ等の実施により、行政と住民のコミュニケーションを図る場の増加と、参加した町民のまちづくりへの意欲向上が図れた。 ・将来の綾町を担う子供たちに綾の自然やまちを知ってもらう機会を増やすことができ、子供たちの綾に対する関心・愛着を高める効果が得られた。 | | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | | | 実施内容 | | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | |
| | モニタリング | | なし | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | - | | |
| | 住民参加プロセス | | 住民(まちづくり団体等)と行政の協働による『綾地区における地域活性化のための取り組み(イベント等)』の検討・実施 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● まちづくり団体等の主体的な活動に任せ、町はその活動支援を検討・実施する。 | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | | 本事業で整備した産業観光会館を拠点として商工会や各種まちづくり団体のまちづくり体制の構築・強化が図られた。 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● まちづくり団体等の更なる体制強化をすすめるための具体的なプロセスの検討 | | |

様式2-2 地区の概要

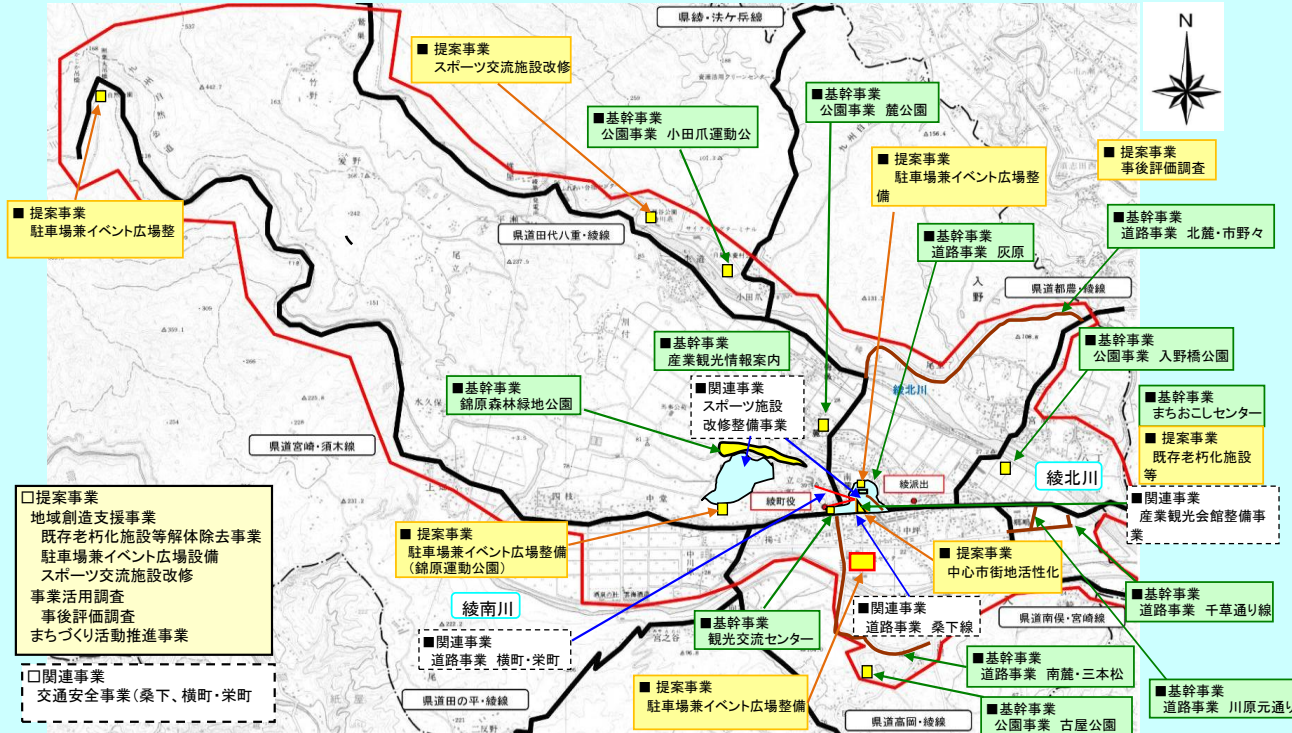
綾地区(宮崎県綾町) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | 従前値 | 目標値 | 評価値 |
|--|------------------------|-------------|-------------|------------|
| 自然豊かな綾の文化が体感できる魅力と賑わいのある中心市街地の再構築を図り、「人と人との交流の盛んな活力のあるまちづくり」を目指す。 ①人と人との交流の拠点としての中心市街地の賑わいを再生し、地域資源を活用した住民創意の活力のあるまちづくりを目指す。 ②安心安全なアクセスルートの整備を図るとともに自然にマッチした街並みの景観形成を推進し、心豊かな生活のできる産業観光のまちづくりを推進する。 ③住民と合意の得られた住環境整備等により、定住および移住促進を図り、地域活力のあるまちづくりを目指す。 | 産業観光会館の活用状況 | 75 H19 | 240 H25 | 326 H25 |
| | 来街観光客数 | 318,272 H19 | 400,000 H25 | 26,700 H25 |
| | 転入人口の増加 | 209 H19 | 300 H25 | 325 H25 |
| | 『綾のまちづくり』に対するサポート人数の増加 | 170 H20 | | 13,636 H25 |
| | 『綾のまちづくり』への参加(意欲)者数の増加 | 9 H20 | | 18 H25 |

○産業観光会館(綾ふれあい館)の活用状況
・イベントの様子




・地域資源の情報発信

・手づくりほんものセンター



・灰原線の整備



まちの課題の変化

- ・中心市街地の中核施設(産業観光会館、手づくりほんものセンター)整備に際して、まちづくり組織からのニーズを踏まえた施設内容とすることで、整備後も様々なまちづくり組織が情報発信やまちの活性化などを目的として積極的に活用する結果が得られた。
- ・上記施設の整備・活用が図られているものの「本町の顔」となる中心市街地という点では、これらの施設を含む中心地エリアに統一感や本町ならではの地域性・魅力を形成できていない状況にある。
- ・施設整備による情報発信機能強化やまちづくり組織によるまちの魅力を高めるための取り組み等によって、『綾のまちづくり』に対するサポート人数やまちづくりへの新規参加(意欲)者数の増加につなげることができた。
- ・本町観光施設における観光客数の増加という観点では未だ不十分な点が課題として残った。
- ・「産業観光会館」や「手づくりほんものセンター」、イベント広場整備および活用等の本町の魅力を情報発信する事業に加えて、良好な住環境創出のための道路や公園整備等を実施し、転入人口の増加につなげることができた。
- ・定住あるいは移住した方が共感し、新たに町民になった方も含めて『綾のまちづくり』に参加するまちづくりを推進する必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・継続的に中心市街地の中核施設の活用を促進し、住民創意の活力あるまちづくりを展開する。
- ・本事業で強化した産業観光道路の維持管理に努めるとともに、重要ネットワークの更なる強化を図る。
- ・住民からの活用の要望が高い荒廃地に整備した多世代交流拠点施設等について、住民の積極的な活用・維持管理を推進する。
- ・「エコパークタウン綾」のまちの中心地にふさわしい『顔』づくりとして、メインストリートや拠点施設周辺の中心地に、本町らしい自然や景観を取り込む。
- ・本町らしい景観や潜在的な観光スポットを活用した景観まちづくり(綾の「美(自然の美、人工の美、人情の美、食の美、まちの美、人育ての美)」を創出するまちづくり)を推進する。
- ・町民と訪れた方が幸せをわかちあえる、6感(聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚、超感覚的知覚)を満足するまちづくりを展開する。